

- [illegible]

(2) (4)は削屑で、長さ三二―七八mmある。(5)も削屑だが長さ二二―五mmあり比較的厚めの削屑である。(2)は直接は接合しない二片からなるが、同一簡と判断した。いずれも文字は判読できない。

奈良市教育委員會『奈良市埋藏文化財調査概要報告書 平成三年度』（二〇〇三年刊行予定）

(中島和彦)

奈良・薬師寺旧境内

- 1 所在地 奈良市西ノ京町
- 2 調査期間 二〇〇一年（平13）一〇月
- 3 発掘機関 奈良文化財研究所平城宮跡発掘調査部
- 4 調査担当者 代表 金子裕之
- 5 遺跡の種類 寺院跡
- 6 遺跡の年代 奈良時代～江戸時代
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

二坪の北西隅、薬師寺寺域の
設に伴うもので、調査面積は
東西一〇m南北三mの約三
〇m²である。

調査の結果、地山直上の
整地土面で二条の素掘りの
溝を検出した。

木簡は、東西溝SD二七九〇の最下層から六点出土した。この溝は幅〇・七m以上、現存深さ〇・七m、



(奈良・桜井)

薬師寺中心伽藍に至る寺域内東西道路の南側溝と考えられ、西流して西二坊大路東側溝の延長上に位置する南北溝SD二七八五に注ぎ込む。両溝は併存し、廃絶は近世に下る。SD二七九〇からは、他に奈良時代から室町時代にかけての軒瓦、室町時代頃の瓦質の播鉢、江戸時代の土師器（灯明皿としての使用痕跡あり）、漆器椀、灯明皿受台などが出土している。木簡は掲出の一点以外全て墨付きのみの断片である。

8 木簡の釈文・内容

(1)

〔一カ〕
十〇月八日
〔供カ〕
廿一ケ度除□□□□ (3.8)×(3.7)×4 0.81

中世以降の祈禱札の類と考えられる木簡で、右辺と下端は原形を保ち、右辺上部には切り込みがあった可能性がある。左辺は欠損しており。上端も現状より若干長かったと考えられる。一定期間日光にさらされていたためか、文字が一部白く浮き上がって残り、斜光により釈読できる部分がある。

9 関係文献

奈良文化財研究所『奈良文化財研究所紀要二〇〇二』（二〇〇二年）

(年)

(渡辺晃宏)



奈良・旧大乘院庭園

きゅうだいじょういんていえん

- 1 所在地 奈良市高畑町
- 2 調査期間 二〇〇一年（平13）一〇月～二〇〇二年二月
- 3 発掘機関 奈良文化財研究所平城宮跡発掘調査部
- 4 調査担当者 代表 金子裕之
- 5 遺跡の種類 庭園跡
- 6 遺跡の年代 古代～近代
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要



(奈良)

調査地は平城京跡左京四条七坊東端部にあたる。奈良時代の元興寺禪定院の故地とされ、平安時代後期以降は興福寺の門跡寺院である大乘院となった。日本ナショナルトラストによる「名勝旧大乘院庭園保存修理事業」の一環の調査で一九九五年度以降継続して行なっており、過去にも木簡が出土した（本誌第二二号）。今回は西小池北端が想定される北区と、東大池南西部